

エグゼクティブサマリー（要約）

取組名称	コノヒトカン 1000缶プロジェクト			団体設立後の経過年数	3年
応募取組主体名称	一般社団法人コノヒトカン	活動地域	岡山県	応募取組の活動年数	3年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				

はい



取組の要旨
コノヒトカン1000缶プロジェクトは、高校生・大学生が5名で1チームをつくり、廃棄予定の食材から作ったコノヒトカンを使ってフードロスや貧困などの社会課題解決に向けたアイデア出し合い、それらを実現可能性や社会貢献度等の観点で競うコンテスト。単なるアイデア出しコンテストに終わらず、入賞10チームには100缶ずつのコノヒトカンを渡し（合計1000缶）、渡された100缶により自らのアイデアを実行し、その結果を3月に行われる成果報告会で発表する。自分たちで考えた課題解決のプロセスに第三者の評価を受け、実行に移し、振り返りを行うというサイクルを経験できる貴重な取り組みである。
実績の要旨
2022年度：参加チーム29 参加校13、2023年度：参加チーム55 参加校12、2024年度：参加チーム51 参加校21、2025年度：参加チーム117 参加校37。 2025年度は文部科学省の後援および文部科学大臣賞の新設をし、また参加校は北海道から鹿児島まで広がっている。また後援も前述の文部科学省をはじめ岡山県、岡山市、岡山県教育委員会等31団体に上っている。

取組評価の要旨	環境への貢献	廃棄予定である牛肉や魚のあらなどを購入し、それを岡山県所在レストランのシェフのレシピに基づき缶詰化し、有効活用している。さらにそれらを使用して子どもたちに社会課題解決のプロセスを考えさせることで環境問題への知見の深化・周りの人々への広がりを持たせることができる。
	社会・経済への貢献	子どもたちに社会課題解決のプロセスを考えさせることで環境問題への知見の深化・周りの人々への広がりを持たせることができるほか、そのプロセスを実行に移すことで地域社会・経済へ影響を与えることができる。さらに缶詰の製品化および直接子ども食堂や養護施設へ寄付することで社会・経済へ貢献している。
	地域資源の活用	地域資源活用の観点から、岡山県の廃棄予定食材（肉・魚）・野菜（倉敷特産のゴボウ・レンコン等）を使用し、製缶も岡山県内の業者に発注している。また、若者主体のプロジェクト運営による人的資源の活用、飲食店や児童養護施設・地域のネットワーク活用も行っている。
	普及・汎用性	コノヒトカン1000缶プロジェクトでは、参加校は全国に広がりつつあり普及の段階へと入っているものと考えている。企画書形式で全国どこでも参加できる仕組みとなっており、年々参加校も増加。長期保存が可能な缶詰を通じて全国に活動の輪が広がっており、他世代への展開も視野に入れている。
	革新・ユニーク性	廃棄食材の利用、それを缶詰という超長期的・災害時にも有用な食材に転換することにオリジナリティがある。さらにそれをフードロスや貧困の撲滅という社会課題の解決策を考えるきっかけとするツールと位置付けてプロジェクトを行うこと、それが未来を担う子どもたちを対象にしていることに革新性・ユニーク性がある。
	継続性	すでに4回実施しており、今後の参加校の広がりを踏まえると継続性に問題はない。さらに公的機関との連携やアンバサダー制度等により取り組みを補強・継承する仕組みやオンラインサロン等の発展的なコミュニティの形成を目指している。

展望の要旨	「コノヒトカン1000缶プロジェクト」等の一層の全国展開を図るとともに、全国の若者が社会を変えるプラットフォームにすることを目指す。
-------	--